科目ナンバリング					
授業科目名 <英訳>	都市空間論 Theory of Urban Space and Architecture			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　中嶋　節子
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	地域・文化(基礎)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	水1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

人間が造ってきた都市空間の特徴を歴史的にたどるとともに、その上にあらわれる建築と人々のいとなみについて講義する。とりわけわが国の都市空間と建築について、その形態的特徴と成立過程を社会・文化的背景と関連付けながら詳細に解説する。また，こうした歴史的環境がいかに維持，保存されてきたか，あるいは記録，検証されてきたかに関して，制度の推移や時代的傾向，思想，技術的進歩などから概観するとともに，現状の課題とその将来像について検討する。

[到達目標]

都市と建築に関する基礎的知識を習得することによって、現在の都市空間への理解を深めることが可能となる。

[授業計画と内容]

以下の内容について講義する。講義順については前後する場合もある。写真や映像資料，図面，地図などを用いることで，視覚的，感覚的な理解を目指す。以下の内容について講義するが、順序については前後することもある。

1　都市のコスモロジー①：古代都市の理念
2　都市のコスモロジー②：ルネサンス都市・理想都市・バロック都市
3　日本の都市空間①：古代都市から中世都市へ
4　日本の都市空間②：近世城下町と地方都市
5　都市の建築①：町屋の発生と展開
6　都市の建築②：都市のくらしと町屋
7　日本の都市空間③：近世都市から近代都市へ
8　都市の建築③：近代建築の登場
9　都市の建築④：町屋の近代化
10　日本の都市空間④：近代都市の拡大と郊外
11　都市の建築⑤：郊外住宅地と近代住宅
12　都市の建築⑥：近代建築の展開
13　歴史的環境の保存・活用①：文化財行政の歩み
14　歴史的環境の保存・活用②：民間の保存運動の展開と現在

[履修要件]

文系・理系を問わず、都市や建築、あるいは歴史に興味がある学生に是非受講していただきたい。

[成績評価の方法・観点]

授業中に課す小レポート(50%)と，期末のレポート(50%)によって評価する。その際、出席状況も考慮する。

都市空間論(2)へ続く↓↓↓

都市空間論(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介する都市や建築を最低５か所以上、訪れていただきたい。講義や書物などではなく、実際に現地に出かけ、自身の目で見ることで、はじめて理解したことになると考える。

[その他（オフィスアワー等）]

歴史的環境の多様性とその背景にある文化を理解した上で，それらを尊重し，未来に伝えることの重要性を認識していただきたい。